令和８年度　　野母崎小中一貫青潮学園　学力向上プラン

（小６４）野母崎小学校　（中３６）野母崎中学校

目　　標　主体的に学び、基礎学力を身につける児童生徒の育成

		前期 （１～４年）	中期 （５～７年）	後期 （８～９年）
各期の目標		楽しむ	つかむ	高める
		楽しく学ぶ。 語彙を増やす。	学んだことをより確実な力として習得する。	身に付けた力を総合的に活用し、深い学びにつなげる。
主体的に学び、基礎学力を身につける		１授業における主体的な学び		
		めあてを立て、どのような解決方法で進めていくか見通しをもち、最後まであきらめずに解決に向かうことができる児童	めあてを立て、様々な視点から解決方法を検討し、自分の思いや考えを表現しながら、解決に向かうことができる児童・生徒	見通しをもってめあてを立て、多角的に思考を深め、確かな論理で表現しながら、協働して解決に向かうことができる生徒
		２自主（家庭）学習		
		・学習時間 （３０～４５分） ・毎日、学習する。 ・与えられた課題に確実に取り組む。	・学習時間 （６０～９０分） ・集中して取り組む。 ・探究ﾃｰﾏを設定し自分に必要な学習を行う。 ・復習を徹底する。	・学習時間 （８０～１２０分） ・自分の進路実現のために必要な学習を計画的に行う。 ・探究ﾃｰﾏを設定し予習・復習等、学びの深化を図る。
基礎学力の定着	言語活動	３言語活動の充実		
		○各学習において思考・判断・表現の場として「書く・話す」活動を設定する。		
		・主語と述語を明確にして表現する。 ・自分の考えとその理由を明らかにして表現する。	・判断と根拠、結果と原因の関係を明らかにして表現する。また、論理的に考え、人との関わりの中で伝え合う力を高める。	・論理的に思考し、深く共感したり豊かに想像したりする力を養う。 ・人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを広げたり深めたりする。
		４基礎・基本の確実な定着 【重点目標】　各学力テストで市や県の平均を上回ることを目指す。		
	国語	・文字の表記が正しくできる。 ・言葉に関心をもち、語彙を増やす。 ・読書に親しむ。(目標冊数１人 100 冊以上)	・筋道を立てて考える力を養い、自分の考えを書くことができる。 ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書に親しみ、表現を楽しむ態度を育てる。	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。 ・言葉がもつ価値を認識し、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを表現する力を培う。
	算数・数学	・整数の四則計算ができる。 ・文章問題のキーワードを基に題意を理解して解決する。	・分数・小数の四則計算ができる。 ・問題の意図を理解して解決する。 ・必要に応じて数学的活動を選び、活用する。（５・６年）	・正負の数の計算及び文字を含む四則計算ができる。 ・問題の意図を理解し、図を利用するなどして、論理的に解決する。 ・解決の方法をわかりやすく説明する習慣を身に付ける。
	外国語・英語	・外国語を使って「話すこと」「聞くこと」を中心としたコミュニケーションを楽しむ。 ・ローマ字の表記ができる。 (国語との関連　３・４年)	・「聞く」「話す」活動に加え、「読む」「書く」に慣れ親しみ、中学校英語への素地を養う。 ・アルファベットの読み書きができる。 ・音と文字のつながりを知る。	・聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことを通して、情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりすることができる。

具体的な取組

主体的に学び、基礎学力をつける

1　ねらい

学ぶ楽しさを知り、自分の課題に対して、主体的に学ぶ意欲の向上及び学習の習慣化を図る。

2　取組

（1）主体的に学び、基礎学力を身に着ける授業への取組

・導入段階において、児童生徒が自分事としてめあてを捉えられる学習活動を設定し、自己解決力が高まるような声掛けや手立てを仕組む。
・授業の後半に、身に付けた力を生かす時間を確保し、学力の定着を図る。
・教科別に小・中の職員で構成する教科班を作り、教師自らが対話をとおし指導案を作成して研究授業を行う。
・それぞれの教科班で、視点をもって参観してもらう振り返りシートを準備し、研究協議にいかす。

（2）授業の改善

・全職員、共通理解のもと、授業の改善を図る。

○　児童生徒の学習意欲を引き出す「めあて」や、学習内容の定着を図る「まとめ」の工夫
○　明確な指示やわかりやすい説明
○　書く活動や思考を言語化する場の設定
○　対話を通して新たな解決策を見出すために「ティーランタイム」を小学１年生から中学３年生まで一貫して場の設定を行う
○　Chromebook の効果的な活用（ICT の有効活用）

（3）自己（家庭）学習習慣の定着

・小中学校共通で毎日家庭学習チェックを行い、家庭学習の習慣化、家庭学習の取り組みかた等の改善を図る。

基礎学力の定着

1　ねらい

９年間の系統性を意識し、発達段階ごとの達成目標をもとに、児童生徒の基礎的・基本的学習内容の確実な定着を図る。

2　取組

（1）乗り入れ指導の実施

・小中教員で協力してＴＴ指導を行い、より確実な学習内容の定着を図る。
・中期においては日常的な乗り入れ指導の実施を行う。

（2）基礎基本の確実な定着

① 朝のスキルタイム（小）・読書タイム（中）の実施（小：金曜日　中：毎日）
・AI ドリル（キュビナ）を活用し、学力の基礎を養う。（小学校）
・朝読書で読書に親しみ、「読む力」の向上を図る。（中学校）

② 放課後学習教室の実施（小学校）
・学習支援が必要な児童に対し、学校サポーターが学習支援を行う。

③ 放課後 GIGA の時間の実施（火・木中学校）
・AI ドリル（キュビナ）を活用し、学力の基礎を養う。
・クロームブックの基本的な使い方の習得

④ 復習プリントでの反復練習／計算力の向上
・ＡＩ学習ドリル等を活用し、冬季休業中・２・３学期末に復習を行う。

⑤ 教科書の章ごとに小テストを実施（中　７～９年）
・基本問題の理解の定着を図る。

⑥ 学期末の算数確かめテストを実施（小　１～６年）
・基本問題の理解の定着を図る。
・学級や個人の苦手領域を確認し、補充学習により苦手を克服させる。

（3）英語力向上対策／国際理解教育の推進

・中学校英語科担当を中心に、英検の受検推進、スピーチの指導など ALT と協力し、指導にあたる。

（4）言語環境の整備

・掲示板等に資料（ローマ字・英語・俳句等）を掲示し、言葉に関心をもって学ぶことのできる環境を整える。

評価

①　１２・１月にＣＲＴ（小・中）９月に英検ＩＢＡ（中）を実施し、現学年の学習内容の達成度を評価する。
②　次年度の全国学力テスト、県学力テストで達成度を評価する。
※各学力調査において全国や県・市平均を上回ること、および上回る項目が６０％以上になることを目標とする。